



Barcode Utility

ユーザーズガイド

マークについて

本ユーザーズガイドでは下記の記号が使われています。



有益なヒントや補足情報を示しています。

著作権

本文書の情報は予告無く変更することがあります。本文書に記載されているソフトウェアは、ライセンス契約の下に提供されています。ソフトウェアは、これらの契約条項に従ってのみ使用またはコピーできます。本文書のいかなる部分も、ブラザー工業株式会社の書面による事前の許可なしに、いかなる形式または手段によっても複製することはできません。

商標

Brother はブラザー工業株式会社の登録商標です。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの商標です。

ブラザー製品および関連資料等に記載されている社名及び商品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

重要事項

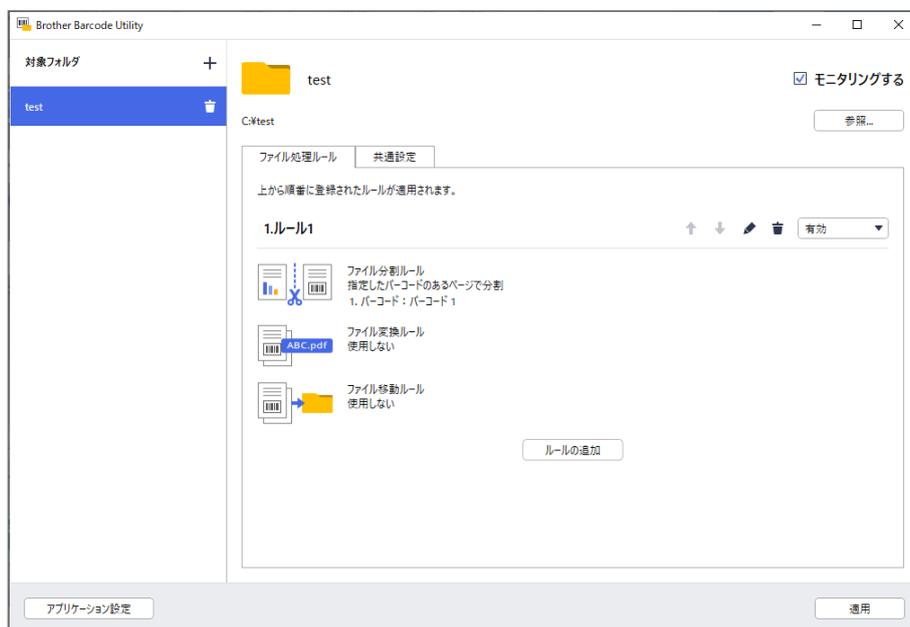
- ・ 特に指定のない限り、本書は Windows 11 の画面を使用しています。実際のパソコンの画面はお使いの OS によって異なる可能性があります。
- ・ 本ガイドならびに本製品の仕様は予告なく変更されることがあります。

目次

1. はじめに	1
1.1 概要	1
1.2 動作環境	2
1.3 対応入出力ファイルフォーマット	2
1.4 サポートされているスキャンカラー設定	3
2. フォルダのモニタリング&ファイルの処理	4
2.1 要件	5
2.2 モニタリングするフォルダ (対象フォルダ) の追加	5
2.3 ファイル処理ルール作成	6
2.4 ファイル処理ルールへのバーコードの割り当て	7
2.5 ファイル分割の設定	11
2.6 ファイル変換の設定	14
2.7 ファイル保存の設定	16
2.8 共通設定	19
2.9 フォルダのモニタリングとファイル処理の開始	20
2.10 PDF ファイルのネットワーク上のフォルダへの出力	21
3. 追加機能	22
3.1 [COUNTER] 命名規則の変更	22
3.2 設定のエクスポート&インポート	23
3.2.1 設定のエクスポート	23
3.2.2 設定のインポート	23
3.3 Barcode Utility のバージョン確認	24
3.4 Barcode Utility のアップデート	25
4. アプリケーションログの確認	26
4.1 アプリケーションログの確認	26
4.2 アプリケーションログフォルダの開き方	26
4.3 アプリケーションログフォルダの変更	27
4.4 アプリケーションログ設定の変更	27
5. 困ったときは	28
5.1 一般	28
5.2 ファイル処理エラー	30
付録 A : バーコードの認識要件	32
付録 B : カスタム命名規則	34
[BARCODE L(A,B)] と [BARCODE R(A,B)] の命名規則	35
付録 C : サポートされているバーコード種別&オプション	37
付録 D : バーコード用の XML 仕様	38
XML ファイルの定義	38
XML の記述例	39

1. はじめに

1.1 概要



Brother Barcode Utility は、バーコードを含むスキャン文書を処理するためのワークフローを効率化します。Barcode Utility では、スキャンしたバーコードを使用して以下のことができます。

1. 個別のページを別の文書にグループ化すること
2. 分割したファイルの名前を変換すること
3. 分割したファイルを指定したフォルダに保存すること

バーコードでのデータ入力は一般的なデータの手入力に比べ正確かつ効率的です。Barcode Utility は、互換性のあるブラザー製品を使用してスキャンされた文書内のすべてのバーコード識別番号 (ID) を読み取り、分析することができます。バーコード ID に様々なルールを割り当てれば、Barcode Utility によって各スキャンジョブが自動処理されます。

機能と特徴

- 1 ページあたり最大 20 件のバーコードに対応
- 1 次元 & 2 次元バーコード種別に対応
- 最大 5 件の対象フォルダのモニタリングが可能
- 1 機能あたり最大 50 件のファイル処理ルールに対応
- スキャン機能が搭載されたブラザー製品で使用可能
- Windows 用 Brother iPrint&Scan 対応
- 複数の製品からのスキャンジョブの処理に対応
- サードパーティーのシステムとの統合可能



本ソリューションを有効にするには、有効なライセンスコードとライセンスコードを対象製品に送信できるソフトウェアが必要です。詳細は、お近くのブラザーの窓口にお問い合わせください。

1.2 動作環境

オペレーティングシステム	クライアント OS	Windows 10 (64 ビット)、Windows 11 (64 ビット)
	サーバー OS	Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows Server 2022
オペレーティングシステムのコンポーネント	.Net Framework 4.5 以降	

1.3 対応入出力ファイルフォーマット

バーコードが含まれる文書は、必ず次のいずれかの方法で、Barcode Utility と互換性のあるブラザー製品を使用してスキャンしてください。

- 製品の操作パネルを使用する
- Windows 用 Brother iPrint&Scan を使用する

Barcode Utility でサポートされている入出力ファイルフォーマットは以下の通りです。

入力ファイルフォーマット	出力ファイルフォーマット
PDF (自動カラーモードオフ)	<ul style="list-style-type: none">・ PDF・ PDF/A-1b・ TIFF

PDF 入力フォーマットの仕様

項目	説明
最大ページ数	100
推奨画像解像度	200 dpi ~ 600 dpi



サポートされているバーコードの全リストは、「付録 C : サポートされているバーコード種別 & オプション」をご覧ください。

1.4 サポートされているスキャンカラー設定

お使いのブラザー製品のスキャン設定が、Barcode Utility によってサポートされているスキャン設定であることを確認してください。Barcode Utility では、自動カラーモード設定を使用して作成された PDF ファイルは処理できません。

製品の種類	設定方法	サポートされている設定	サポートされていない設定
ドキュメント スキャナー	製品の液晶ディスプレイ	カラー	自動
	ウェブブラウザによる設定	・ カラー自動 ・ Color 200 dpi (以上)	・ 自動 ・ 自動 200 dpi (以上)
	デスクトップ用 iPrint&Scan	24bit カラー	自動
レーザー&インク ジェット製品 (モノクロまたはカ ラー)	製品の液晶ディスプレイ	カラー	-
	ウェブブラウザによる設定	・ カラー自動 ・ Color 200 dpi (以上)	-
	デスクトップ用 iPrint&Scan	24bit カラー	-



最良のスキャン結果とバーコード認識を実現するため、24bit カラーのスキャン設定を使用することを推奨しています。詳細は、「付録A：バーコードの認識要件」をご覧ください。

2. フォルダのモニタリング & ファイルの処理

Barcode Utility はバックグラウンドサービスとして実行し、新規スキャンファイル用に指定されたフォルダ (対象フォルダ) を継続的にモニタリングし、バーコード認識と文書分割ルールに従ってファイルを処理します。

1. バーコードが含まれる文書をスキャンします。



2. 対象フォルダに文書を保存します。
3. Barcode Utility によって継続的に対象フォルダのポーリングが行われます。
4. データが指定した出力フォルダに転送されます。

2.1 要件

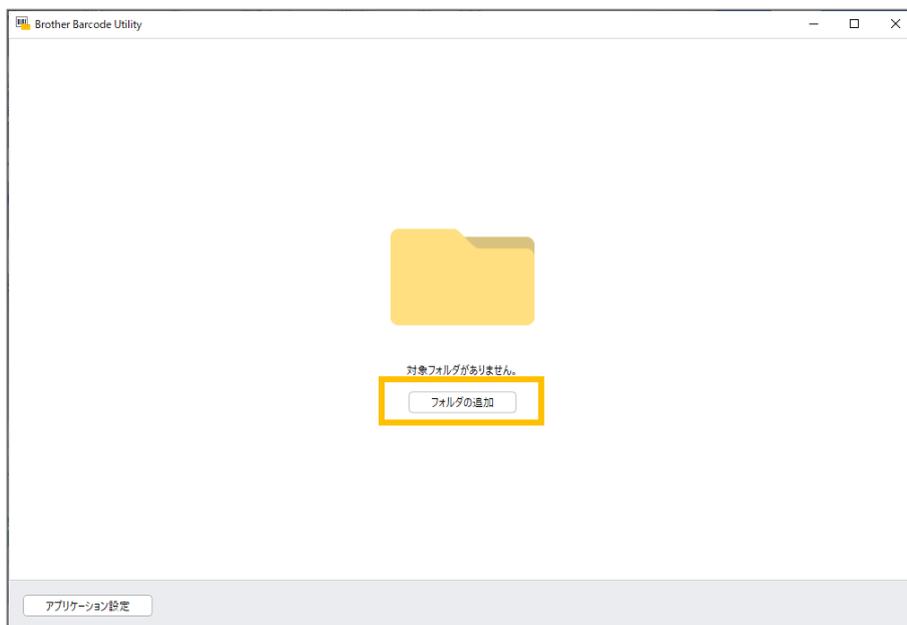
- Barcode Utility ソリューションを対象製品で有効にする必要があります。詳細は、ブラザーの国内ホームページにアクセスしてご確認になるか、お近くのブラザーの窓口にお問い合わせください。
- Barcode Utility をお使いのコンピューターにインストールする必要があります。アプリケーションをダウンロードするには、support.brother.co.jp のダウンロードページにアクセスしてください。
- 文書は製品から直接もしくはデスクトップ用の Brother iPrint&Scan を使用してスキャンする必要があります。

2.2 モニタリングするフォルダ (対象フォルダ) の追加

対象フォルダの要件

- 対象フォルダは最大 5 件追加できます。
- 対象フォルダは、Barcode Utility を実行中のコンピューターまたはサーバーからアクセスできる必要があります。
- 対象フォルダ内のサブフォルダはモニタリング対象外となり、無視されます。
- 複数の対象フォルダに同じ名前を付けることができます。
- フォルダパスが同じ対象フォルダを複数追加することはできません。

1. Barcode Utility を起動します。
2. メイン画面で**フォルダの追加**をクリックします。



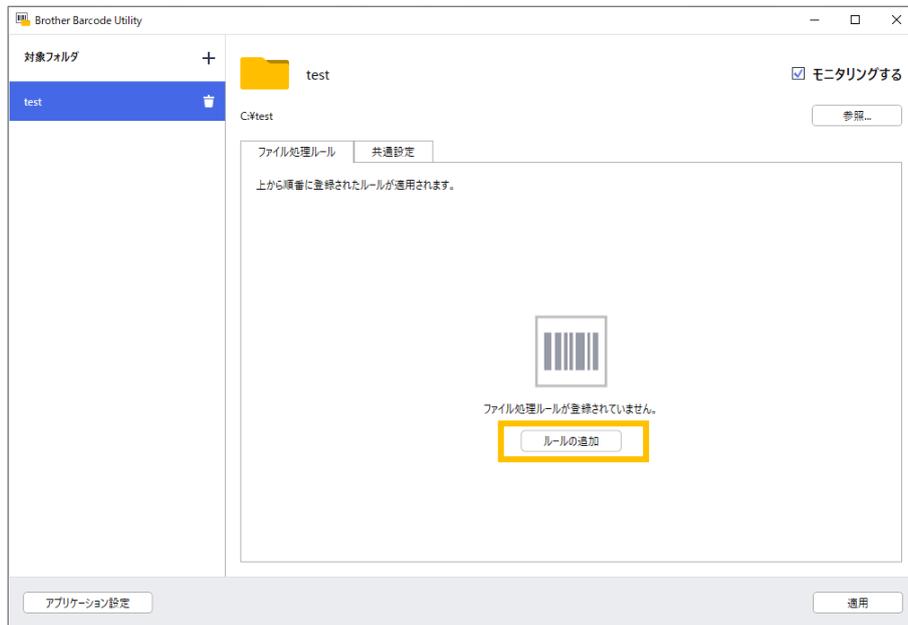
3. モニタリングするフォルダを選択し、**フォルダーの選択**をクリックします。**対象フォルダ**のリストにフォルダが表示されます。



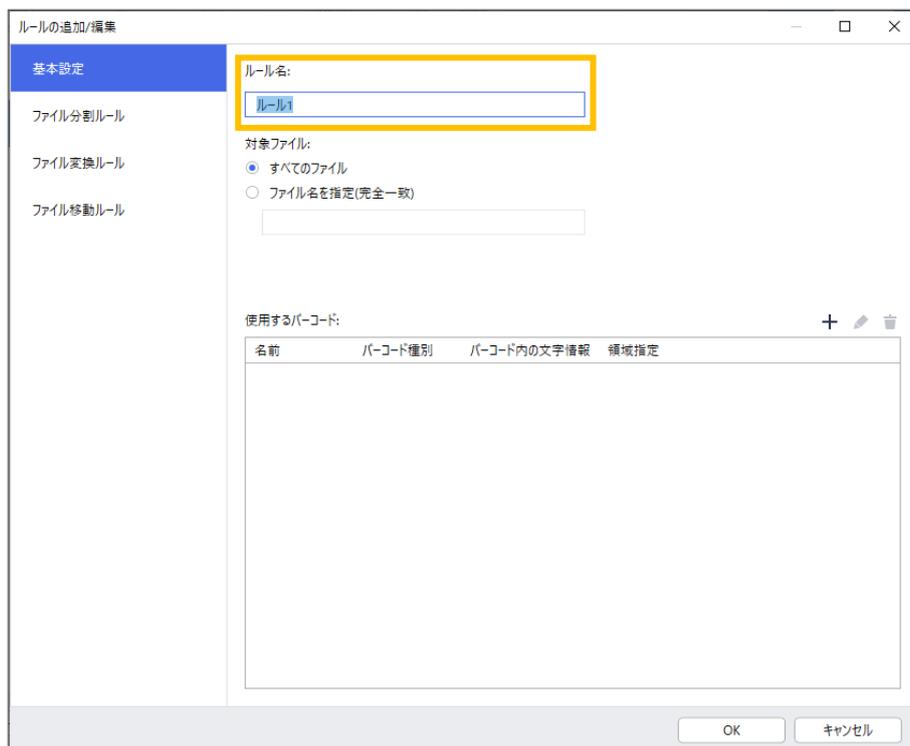
- ・ 対象フォルダのパスを変更するには、**参照...**をクリックして、使用するフォルダを選択します。
- ・ 別の対象フォルダを追加するには、画面左側の**対象フォルダ**のリストで [+] をクリックします。

2.3 ファイル処理ルールを作成

1. ファイル処理ルールタブをクリックし、ルールの追加をクリックします。



2. ルールの追加/編集ダイアログボックスが表示されたら、ルール名フィールドに新規ルールの名前を入力します。

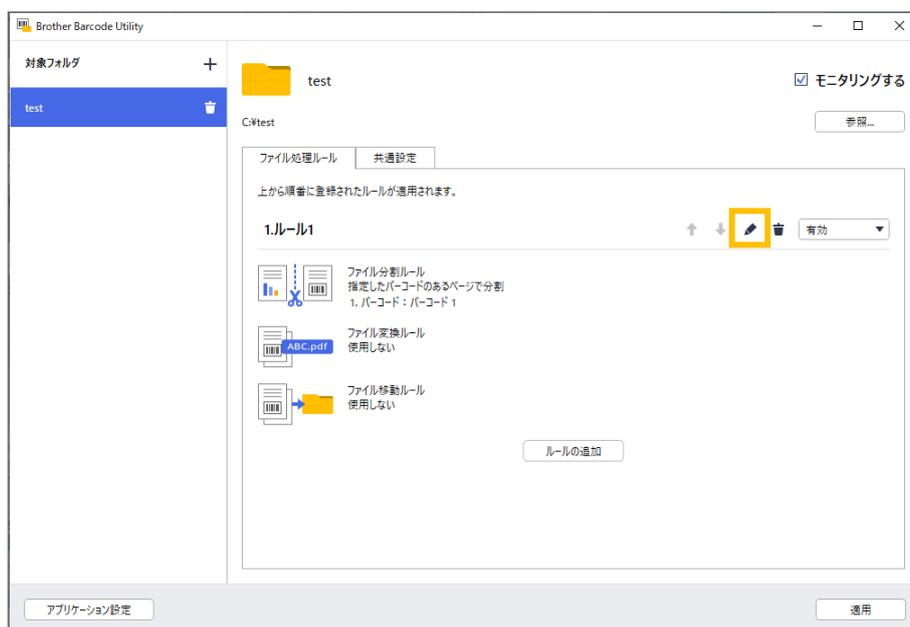


3. 対象ファイルを指定します。

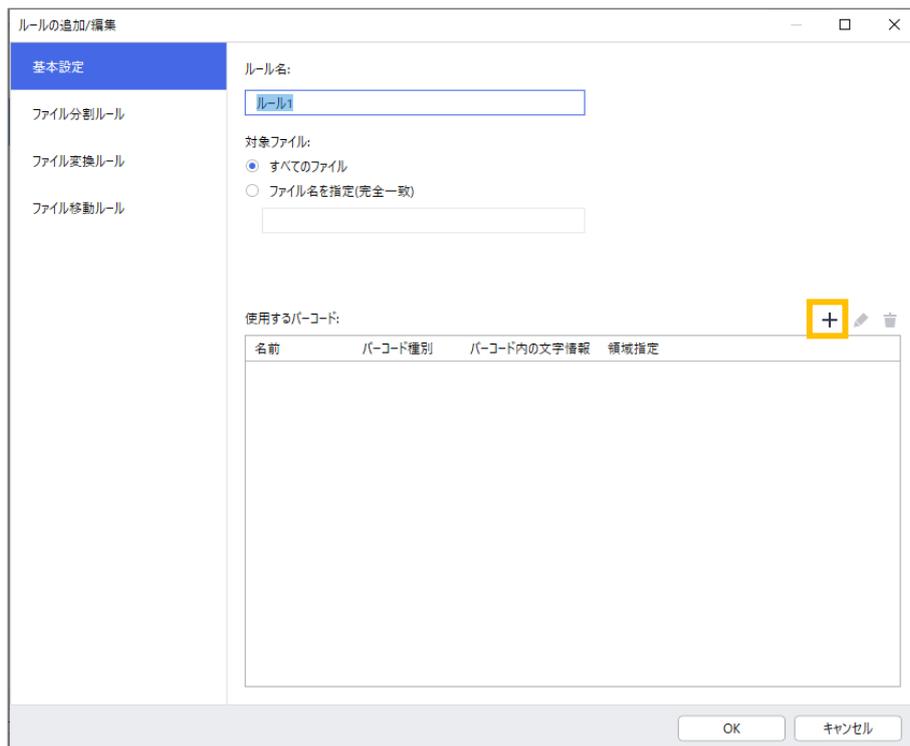
対象ファイル	説明
すべてのファイル	スキャンしたファイルすべてが指定した対象フォルダに割り当てられたルールに従って処理されます。
ファイル名を指定(完全一致)	スキャンしたファイルはファイル名に従って処理されます。処理ルールは、指定したファイル名のファイルのみに適用されます。必ずここに指定するファイル名を入力してください。

2.4 ファイル処理ルールへのバーコードの割り当て

1. 新規作成したルールの横にある編集ボタン [✎] をクリックします。



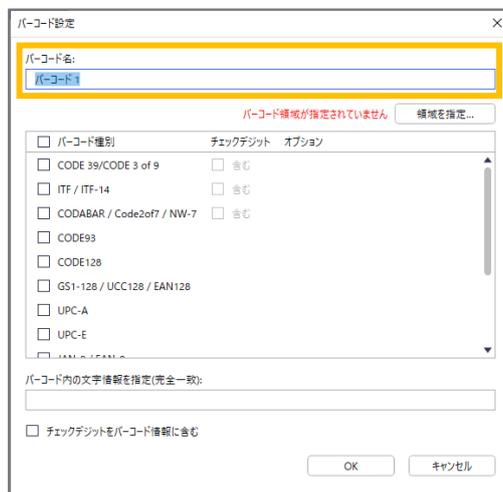
2. 基本設定をクリックし、[+]をクリックします。



3. バーコード設定ダイアログが表示されたら、バーコード名フィールドにバーコード名を入力します。



バーコードを正確に認識し読み取るため、必ず Barcode Utility の認識設定を正確に設定してください。



4. 該当するバーコード種別のチェックボックスにチェックをいれます。
5. 追加のバーコード情報がある場合は、バーコード内の文字情報を指定(完全一致)フィールドに入力します。



正規表現 (Regex) にも対応しています。例えば、文字列 (01012022a1234567890) で始まるタイムスタンプを含むバーコードの場合、このフィールドに「`^[0-9]{8}.*`」と入力するとこのタイムスタンプ (01012022) を検索できます。

6. チェックデジットを追加する場合は、チェックデジットをバーコード情報に含むのチェックボックスにチェックを入れてください。

7. より正確な処理を行うため、バーコード領域を指定することを推奨しています。

バーコード領域を指定する場合

手順 8 に進んでください。

バーコード領域を指定せずに処理を行う場合

手順 13 に進んでください。

8. **領域を指定...**をクリックします。
9. **領域を指定**ダイアログボックスが表示されます。**参照...**をクリックし、使用するバーコードが含まれたスキャンファイルを選択し、**開く**をクリックします。



10. スキャンファイルのファイル名とプレビューが表示されます。



次のいずれかの操作を実行します。

1 ページの文書の場合

プレビューフィールドの選択範囲の枠を動かし、サイズを調整して、使用するバーコードを選択します。バーコードを赤枠で囲んだら、**OK** をクリックし選択範囲を保存します。

複数ページの文書の場合

バーコード領域に指定するページを選択します。プレビューフィールドの選択範囲の枠を動かし、サイズを調整して、使用するバーコードを選択します。バーコードを赤枠で囲んだら、**OK** をクリックし選択範囲を保存します。保存した選択範囲がすべてのページに適用されます。



- ・ スキャンファイルを読み込めない場合は、Barcode Utility と互換性のあるブラザー製品を使用してもう一度マスターバーコードをスキャンしてください。
- ・ 正確に認識させるため、選択範囲の赤枠が対象のバーコードの最低でも 80% にかかるようにしてください。



11. 後で使用するためにバーコード画像を保存するには、**画像をアプリケーション内に保存する**のチェックボックスにチェックを入れます。

バーコード画像はアプリケーションフォルダの「\img_bkup」フォルダに保存されます。

12. **OK** をクリックします。



13. 設定を確認し、**OK** をクリックします。

基本設定の使用するバーコード リストに新規バーコードが表示されます。

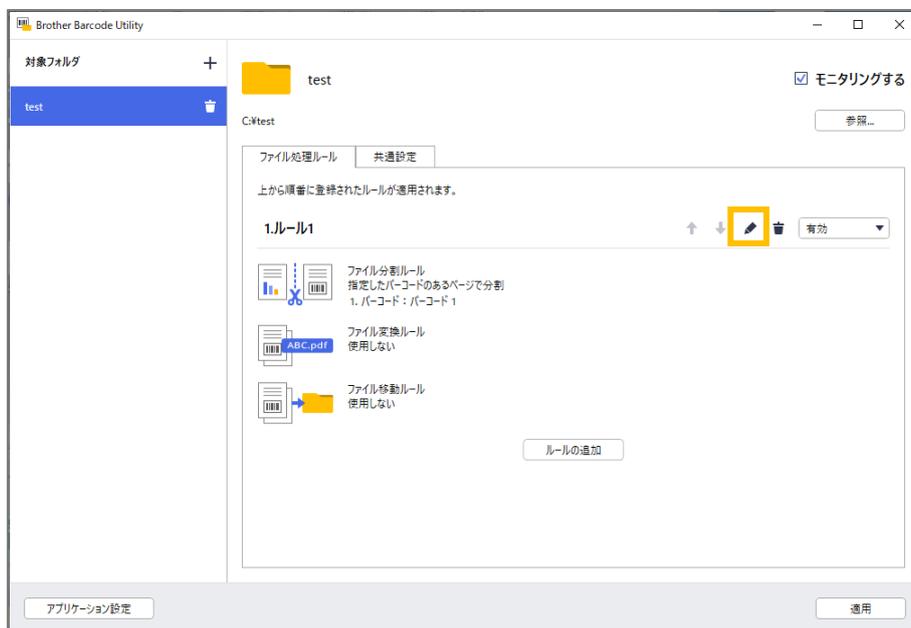


バーコードを追加、編集、削除するには、[+]、[✏️]、および [🗑️] ボタンを使用します。

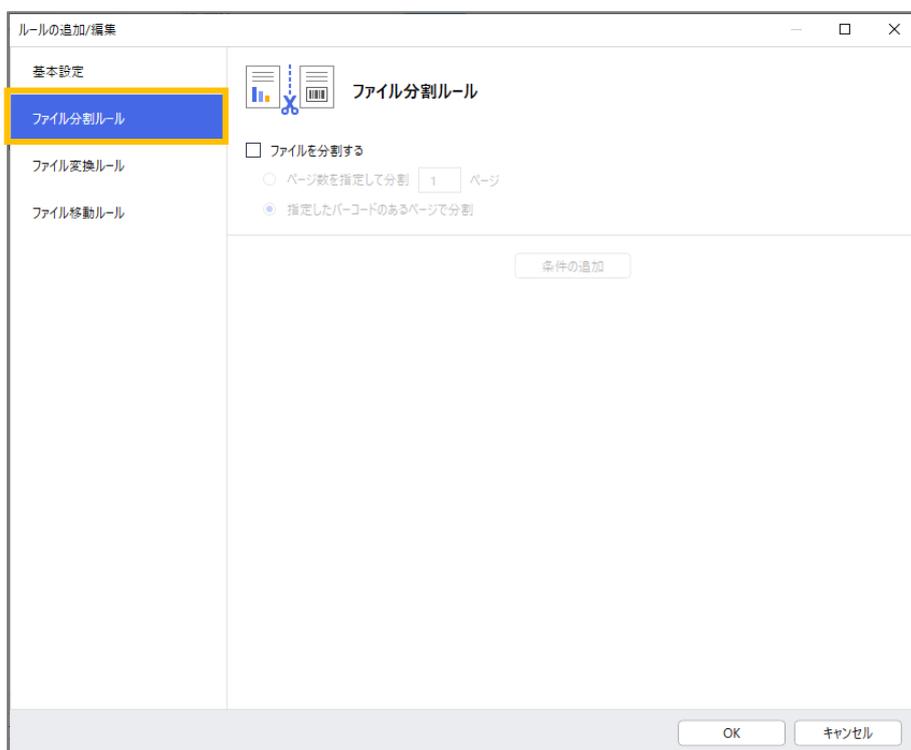
2.5 ファイル分割の設定

Barcode Utility を使用して、スキャンした複数ページの文書をよりページ数の少ない文書に分割できます。

1. 新規作成したルールのある横にある編集ボタン [✎] をクリックします。



2. 左にあるナビゲーションバーの**ファイル分割ルール**をクリックします。



3. **ファイルを分割する**のチェックボックスにチェックを入れます。

4. 次のいずれかのファイル分割ルールを選択します。

ページ数指定して分割する場合

- a. ページ数を指定して分割のラジオボタンを選択します。



- b. 分割後に作成される文書のページ数を入力します (最大 99 ページ)。

指定したバーコードのあるページで分割する場合

- a. 指定したバーコードのあるページで分割のラジオボタンを選択します。

- b. 条件の追加をクリックします。



- c. 使用するバーコードのドロップダウンリストで、使用するバーコードを選択するか、新しいバーコードを追加... オプションを選択して新規バーコードを指定します。



- d. ファイル分割用バーコードが記載されたページが文書に含まれており、分割後に作成される出力ファイルからバーコードを削除する場合は、**ファイル分割用バーコードを含むページを削除する**のチェックボックスにチェックを入れます。詳細は、13 ページの例をご覧ください。

- e. 必要に応じて、**条件の追加**ボタンを使用してルールをさらに追加します。

5. 設定を確認し、OK をクリックします。

警告アイコン [!] が表示されたら、指示通りに設定を修正してください。

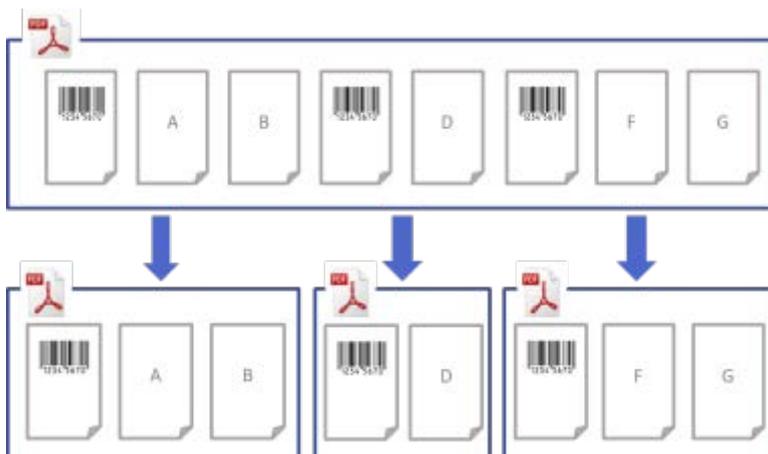


ファイル分割ルールを削除するには、ルール名の右にある [] ボタンをクリックします。

分割用ページの検出または削除

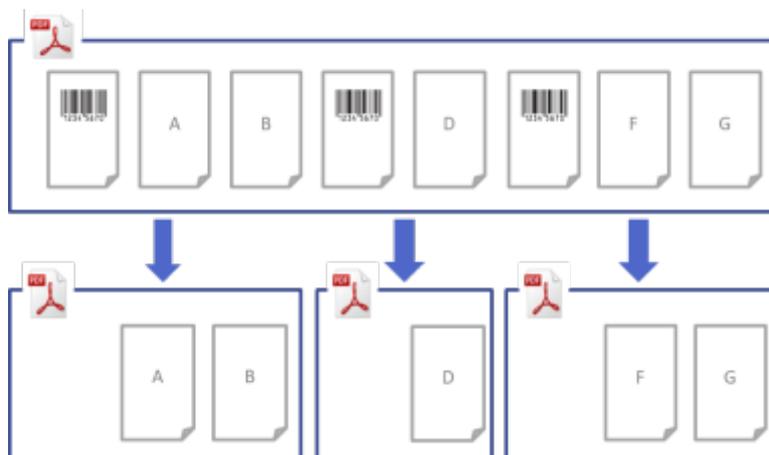
例 1

バーコードでファイル分割を検出する場合



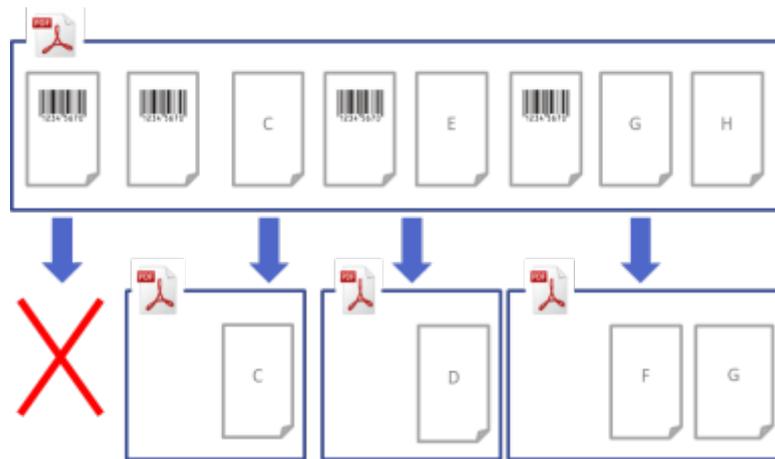
例 2

出力ファイルからバーコード情報を含む分割用ページを削除する場合



例3

ファイル分割に使用されるバーコードを含む分割用ページを削除する場合

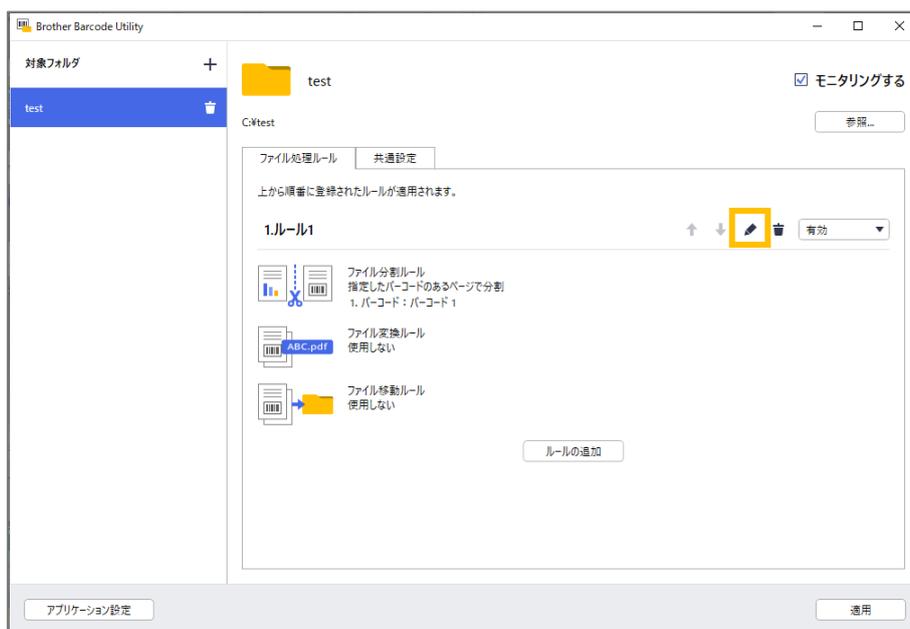


2.6 ファイル変換の設定

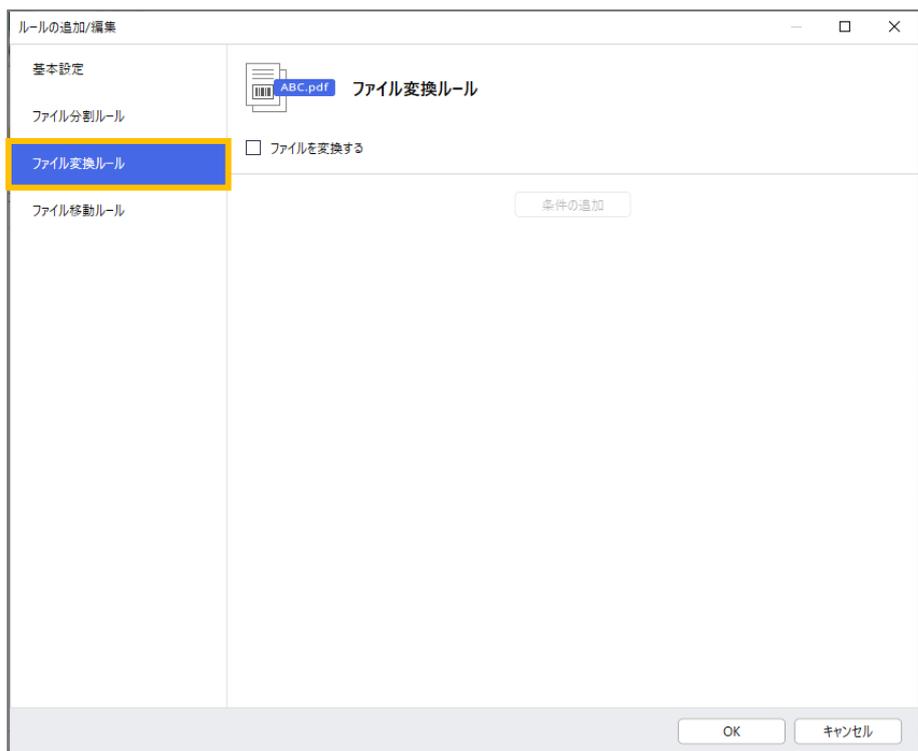
Barcode Utility は、ファイルに含まれるバーコードに基づいて新たに分割された文書ファイルを変換できます。



1. 新規作成したルールのある編集ボタン [✎] をクリックします。



2. 左にあるナビゲーションバーの**ファイル変換ルール**をクリックします。



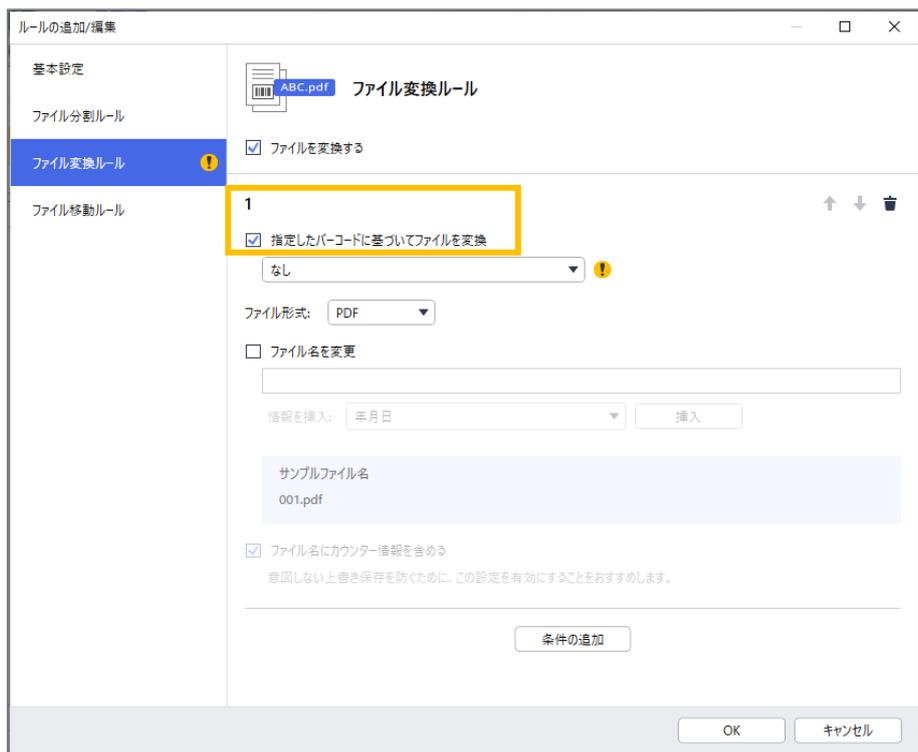
3. **ファイルを変換する**のチェックボックスにチェックを入れます。

4. **条件の追加**をクリックします。

5. ファイル名のルールを指定します。

指定したバーコードに基づいてファイルを変換する場合

a. **指定したバーコードに基づいてファイルを変換**のチェックボックスにチェックを入れます。



b. ドロップダウンリストで、使用するバーコードを選択するか、**新しいバーコードを追加...**のオプションを選択して新規バーコードを指定します。

c. **ファイル形式**のドロップダウンリストからファイル形式を選択します。

静的情報と動的情報の組み合わせに基づいてファイルを変換する場合

a. **ファイル名を変更**のチェックボックスにチェックを入れます。

b. 使用するファイル名を入力します。

c. **情報を挿入**のドロップダウンリストから挿入する追加の情報を選択し、**挿入**をクリックします。
詳細は、「**付録B：カスタム命名規則**」をご覧ください。

d. サンプルファイル名のプレビューを確認します。

e. 意図しないファイルの上書きを防ぐため、**ファイル名にカウンター情報を含める**のチェックボックスにチェックを入れます。

6. 必要に応じて、**条件の追加**ボタンを使用してルールをさらに追加します。

7. 設定を確認し、**OK** をクリックします。

警告アイコン [!] が表示されたら、指示通りに設定を修正してください。



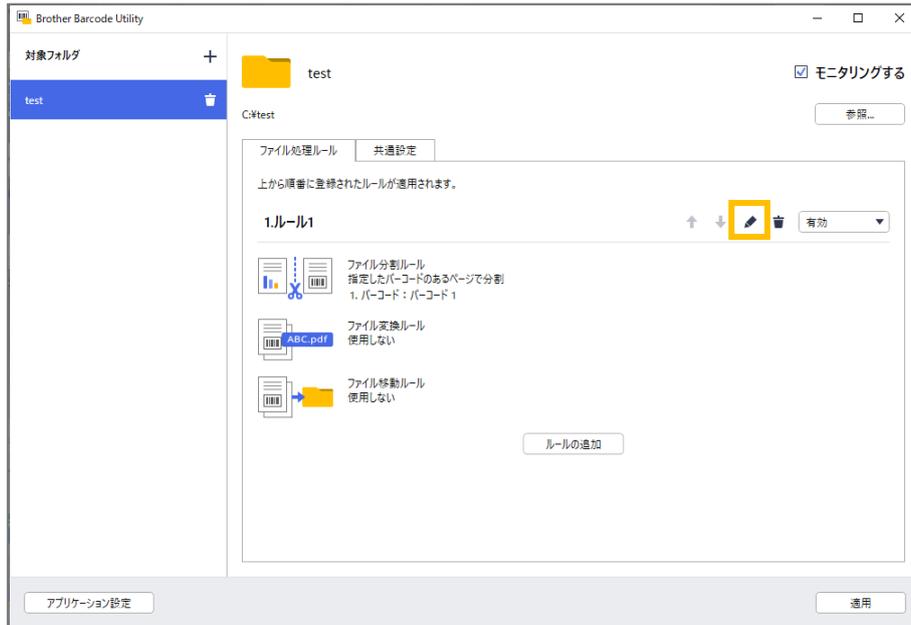
ルールの順序を変更する場合や、ファイル変換ルールを削除する場合は、[↑ ↓]と[🗑️]ボタンを使用してください。

2.7 ファイル保存の設定

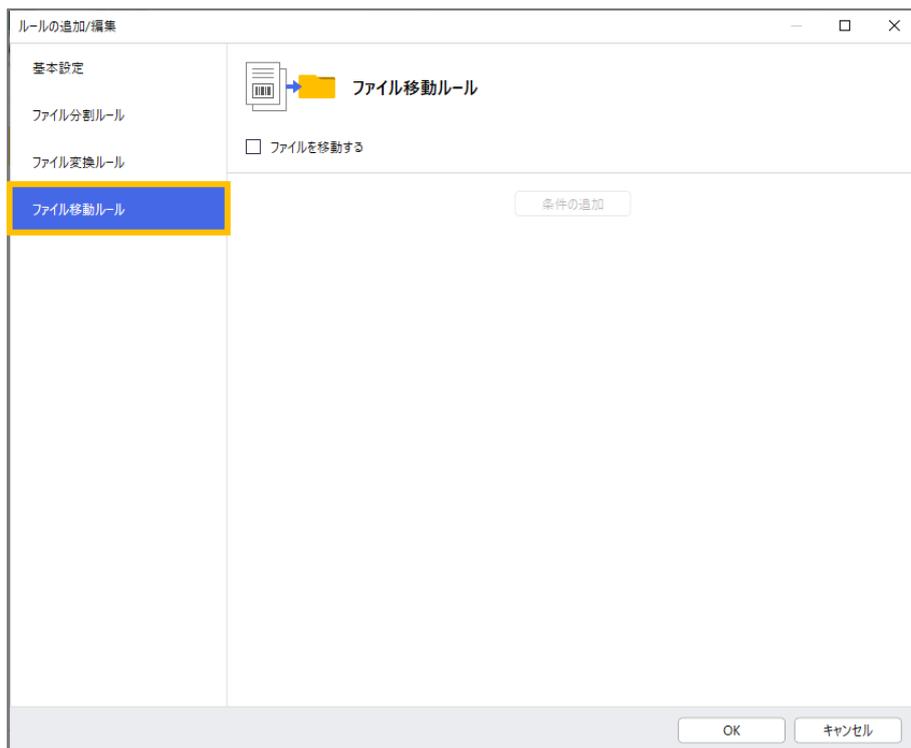
Barcode Utility を使用して、分割された新規文書ファイルを指定のフォルダに保存できます。



1. 新規作成したルールのある横にある編集ボタン [✎] をクリックします。

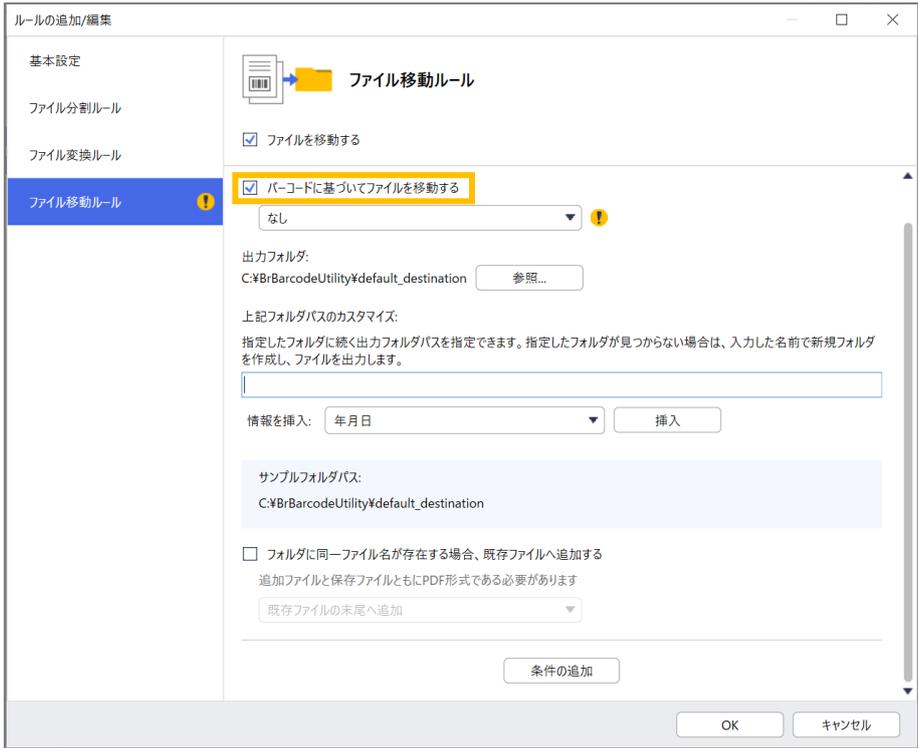


2. 左にあるナビゲーションバーの**ファイル移動ルール**をクリックします。



3. **ファイルを移動する**のチェックボックスにチェックを入れます。
4. **条件の追加**をクリックします。

5. バーコードに基づいてファイルを移動するのチェックボックスにチェックを入れます。



6. ドロップダウンリストで、使用するバーコードを選択するか、**新しいバーコードを追加...** のオプションを選択して新規バーコードを指定します。
7. デフォルトの移動先を変更するには、**参照...** をクリックし、使用するフォルダを指定し、**フォルダーの選択** をクリックします。
8. 使用するフォルダのパスを入力します。
9. パスをカスタマイズする場合や、サブフォルダを追加する場合は、**情報を挿入**のドロップダウンリストから追加の情報を選択し、**挿入**をクリックします。



- ・ 静的パスは空白にはできません。
- ・ 静的パスとして指定できるのは既存のフォルダのみです。
- ・ 静的パスに対象フォルダと同じパスを指定することはできません。
- ・ 静的パス名は 247 文字以内で設定してください。

例

「C:\Statement001\2017\003\」を出力先に設定する場合は、以下の設定を指定します。

- ・ 静的パス : C:\
- ・ 命名規則 : [BARCODE] \ [YEAR] \ [COUNTER]
- ・ バーコード情報 : Statement001
- ・ システムの日付情報 : 15/06/2017
- ・ 現在のカウンター番号 : 003

静的パスとカスタム命名規則を組み合わせる方法については、「付録B : カスタム命名規則」をご覧ください。

10. サンプルフォルダパスフィールドに表示されているパスが正しいことを確認します。

11. 新しくスキャンしたページを既存ファイルに追加するには、フォルダに同一ファイル名が存在する場合、既存ファイルへ追加するチェックボックスを選択し、ドロップダウンメニューから既存ファイルの先頭へ追加、または既存ファイルの末尾へ追加を選択します。



ファイルの合計ページ数が 100 ページを超える場合、元のファイル名を新しいファイル名に変更し、101ページ目以降はオリジナルのファイル名で保存されます。新しいファイル名は、アプリケーション設定 > 処理設定 > [COUNTER]動作定義での設定に基づきます。

12. 必要に応じて、条件の追加ボタンを使用してルールをさらに追加します。

13. 設定を確認し、OK をクリックします。

警告アイコン [!] が表示されたら、指示通りに設定を修正してください。



ルールの順序を変更する場合や、ファイル移動ルールを削除する場合は、[↑ ↓]と[🗑️]ボタンを使用してください。

2.8 共通設定

対象フォルダのモニタリングを開始する前に、共通設定を行ってください。共通設定は、使用したバーコードの追跡やプロファイルが見つからない場合、バーコードが認識されない場合のファイルの誤処理の防止に役立ちます。

1. メイン画面で共通設定タブをクリックします。



2. すでに処理されたファイルの保存ルールを指定します。

設定	説明
ターゲットフォルダに保持	処理された入力ファイルがターゲットフォルダに保持されます。
削除	処理された入力ファイルがすべて削除されます。
他のフォルダへ移動	処理された入力ファイルが指定のフォルダに移動されます。参照... をクリックし、使用するフォルダを指定します。

3. エラー時の処理のセクションで以下の操作を行います。

- a. 出力フォーマットのドロップダウンリストを使用して、誤って処理されたファイルを保存するための出力フォーマットを選択します。

設定	説明
入力ファイル名と同じ	誤って処理されたファイルのファイル名は変更されません。
ファイル名を変更	誤って処理されたファイルすべてのファイル名が自動的に変更されます。 ファイル名を変更 フィールドに新規デフォルトファイル名を入力し、必要に応じて追加情報を指定します。詳細は、「付録B：カスタム命名規則」をご覧ください。

- b. 参照... をクリックして、誤って処理されたファイルを保存するフォルダを指定します。

4. 適用をクリックします。

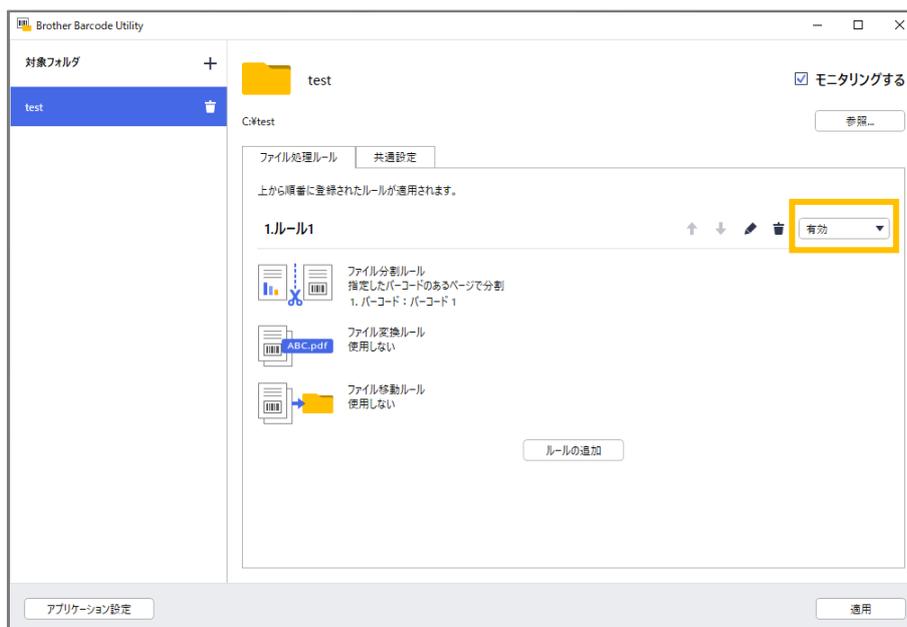
2.9 フォルダのモニタリングとファイル処理の開始

対象フォルダのモニタリングを開始する前に、受信するスキャンジョブの処理に使用するルールを有効にしてください。



- ・ デフォルトでは、フォルダのモニタリング機能はオンに設定されています。
- ・ 対象フォルダのファイルを処理するためのルールが Barcode Utility に最低 1 件設定されていることを確認してください。
- ・ ファイル処理ルールを作成する際は、ルールが「有効」に設定されていることを確認してください。

1. 画面左側にある**対象フォルダ**のリストで、モニタリングする対象フォルダを選択します。
2. 有効にする各ルールの横にあるドロップダウンリストで**有効**を選択します。
すべてのルールを確認するには、画面を下にスクロールする必要がある場合があります。



- 画面右上にある**モニタリングする**のチェックボックスにチェックを入れ、**適用**をクリックします。
Barcode Utility は、有効にしたルールを適用し、選択した対象フォルダのモニタリングを開始します。



受信するスキャンジョブのモニタリングを停止するには、**モニタリングする**のチェックボックスのチェックを外し、**適用**をクリックします。

- 複数の対象フォルダを同時にモニタリングする場合は、各フォルダで**モニタリングする**が有効に設定されていることを確認してください。
- 現在の設定を XML 形式でエクスポートし、インポートして特定のバーコードとルール設定を復元できます。詳細は、「[3.2 設定のエクスポート&インポート](#)」をご覧ください。
- 対象フォルダ間で設定をコピーすることはできません。

Barcode Utility によってファイルが正しく処理されない場合は、以下のセクションをご覧ください。

- [4.1 アプリケーションログの確認](#)
- [5. 困ったときは](#)

2.10 PDF ファイルのネットワーク上のフォルダへの出力

-  > **すべてのアプリ** > **Windows ツール** > **サービス**の順にクリックします。
- リストの **Brother Barcode Utility Service** を右クリックし、**プロパティ**をクリックします。
- ログオン**タブをクリックします。
- アカウント**ラジオボタンを選択し、アカウント名とパスワードを入力します。
- OK** をクリックします。



- Barcode Utility で出力先フォルダを設定します。



- PDF ファイルを出力するネットワークフォルダにアクセス可能なアカウントでサービスにログインしていない場合、PDF 出力機能は正常に作動しません。
- サービスへのログインに使用するユーザー認証情報は、パソコンのログインに使用する認証情報とは異なる場合があります。

3. 追加機能

3.1 [COUNTER] 命名規則の変更

カスタム命名規則である [COUNTER] を使用する場合、カウンターが 3 桁のフォーマット (000~999) でファイル名に追加されます。1000 以降は番号に合わせて桁が増えます。

1. メイン画面で**アプリケーション設定**をクリックします。
2. 左にあるナビゲーションバーの**処理設定**をクリックします。



3. 次のいずれかの操作を実行します。

最小の空き番号を付与する場合

最小の空き番号を付与のチェックボックスにチェックを入れます。

例

出力フォルダに「document_000.pdf」、「document_001.pdf」、「document_099.pdf」という名前の3つのファイルがあるとします。この場合に「document_[COUNTER]」フォーマットを使用し、このルールを適用すると、次に出力されるファイルには、「document_002.pdf」という名前が自動的に付与されます。

存在する最大番号の次の番号を付与する場合

存在する最大番号の次の番号を付与のチェックボックスにチェックを入れます。

例

出力フォルダに「document_000.pdf」、「document_001.pdf」、「document_099.pdf」という名前の3つのファイルがあるとします。この場合に「document_[COUNTER]」フォーマットを使用し、このルールを適用すると、次に出力されるファイルには、「document_100.pdf」という名前が自動的に付与されます。



バーコード情報を XML 形式でエクスポートするには、画面上側にある**バーコード情報を XML 形式で出力する**のチェックボックスにチェックを入れます。詳細は、「付録 D : バーコード用の XML 仕様」をご覧ください。

4. **OK** をクリックします。
5. アプリケーションのメイン画面で**適用**をクリックします。

3.2 設定のエクスポート & インポート

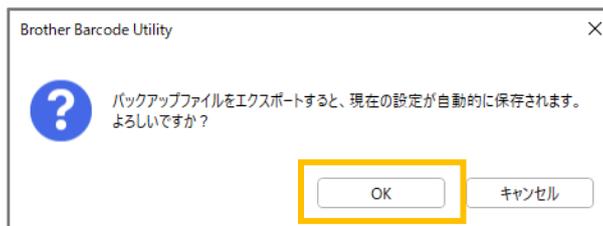
指定したバーコードとルール設定を保存するには、現在の設定を XML 形式でエクスポートします。必要に応じて、インポートして再び適用することができます。

3.2.1 設定のエクスポート

1. メイン画面で**アプリケーション設定**をクリックします。
2. 左にあるナビゲーションバーの**インポート/エクスポート**をクリックします。



3. **バックアップファイルのエクスポート**をクリックします。
4. 確認画面が表示されたら、**OK** をクリックします。



5. エクスポートしたファイルに付ける名前を入力し、**保存**をクリックします。

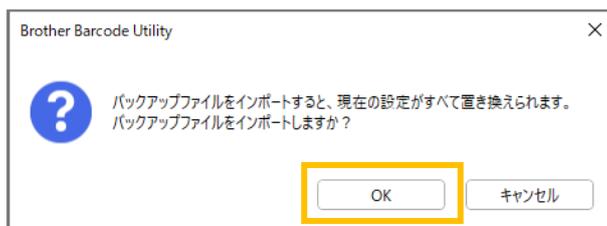
3.2.2 設定のインポート

1. メイン画面で**アプリケーション設定**をクリックします。
2. 左にあるナビゲーションバーの**インポート/エクスポート**をクリックします。



3. **バックアップファイルのインポート**をクリックします。
4. インポートする XML ファイルを選択し、**開く**をクリックします。

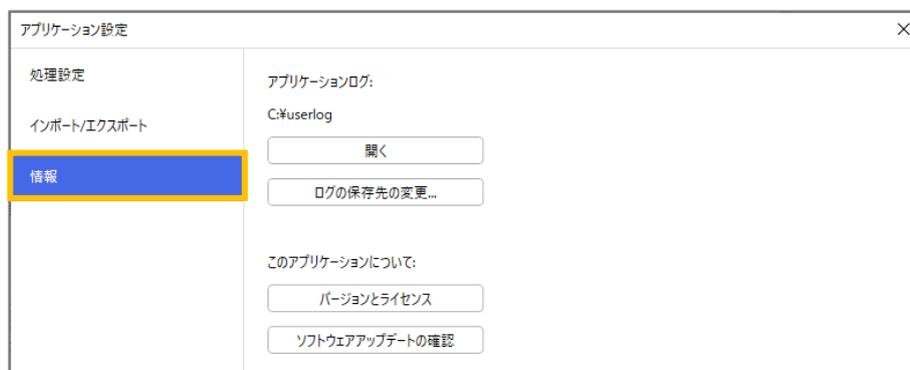
5. 確認画面が表示されたら、**OK** をクリックします。



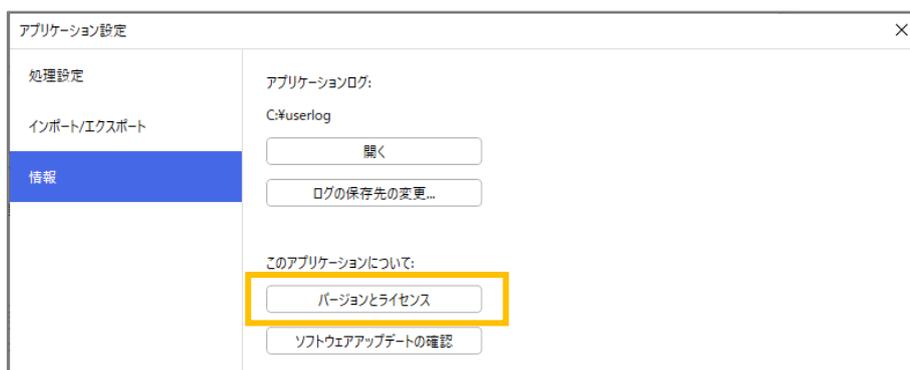
6. **OK** をクリックします。
7. アプリケーションのメイン画面で**適用**をクリックします。

3.3 Barcode Utility のバージョン確認

1. メイン画面で**アプリケーション設定**をクリックします。
2. 左にあるナビゲーションバーの**情報**をクリックします。



3. **バージョンとライセンス**をクリックします。



3.4 Barcode Utility のアップデート

1. メイン画面でアプリケーション設定をクリックします。
2. 情報をクリックします。



3. ソフトウェアアップデートの確認をクリックします。



4. アプリケーションログの確認

4.1 アプリケーションログの確認

Barcode Utility 使用中に問題が発生した場合は、アプリケーションログを確認してください。アプリケーションログには、次の項目に関するエラーと通知が含まれます。

- バーコードの設定
- 入力 PDF とバーコードの品質
- ファイル処理の進捗

ログの項目 (ステータス)	説明
Error (エラー)	ファイルを処理できません。詳細は、「5.2 ファイル処理エラー」をご覧ください。
Warning (警告)	ファイルは部分的にのみ処理されています。詳細は、「5.2 ファイル処理エラー」をご覧ください。
Inform (お知らせ)	ファイルの処理結果が表示されます。

4.2 アプリケーションログフォルダの開き方

1. メイン画面でアプリケーション設定をクリックします。
2. 左にあるナビゲーションバーの情報をクリックします。



3. 開くをクリックします。



ユーザーが設定したファイル容量の上限に到達するまで、Barcode Utility はログファイルを更新し、名前の変更をしてバックアップをします。すでに 6 件のログファイルがバックアップされている場合、一番古いファイルが最新のファイルに置き換えられます。

4.3 アプリケーションログフォルダの変更

1. メイン画面でアプリケーション設定をクリックします。
2. 左にあるナビゲーションバーの情報をクリックします。



3. ログの保存先の変更...をクリックします。
(ログファイルのデフォルトの保存先: \BarcodeUtility install folder\userlog)
4. 保存先に指定するフォルダを選択し、フォルダーの選択をクリックします。

4.4 アプリケーションログ設定の変更

1. アプリケーションログフォルダで userlogsetting.txt ファイルを編集します。

設定	説明
path	コンピューター上のログファイルのパス (デフォルト: \Barcode Utility Install Folder\userlog)
filename	ログファイル名 (デフォルト: userlog.csv)
maxsize	ログファイルの最大容量 (単位: MB、1~10、デフォルト: 2)

2. ファイルを保存します。

ログの設定が許容範囲内でない場合、Barcode Utility はデフォルトの設定を使用します。

5. 困ったときは

5.1 一般

このセクションには、発生する可能性のある一般的な問題の解決方法が書かれています。ほとんどのエラーはご自身で解決することができます。

問題	対処方法
ページ数の多い PDF (100 ページ以上) が処理できない。	Barcode Utility は、100 ページ以上の PDF ファイルをサポートしていません。
自動カラースキャン設定を使用してスキャンされたバーコードが正確に認識されない。	自動カラースキャン設定を使用して文書をスキャンすることはできません。最良のスキャン結果とバーコード認識を実現するため、24bit カラーのスキャン設定を使用することを推奨しています。
ログファイルが見つからない。 ログファイルが更新されない。	<ul style="list-style-type: none">デフォルトのアプリケーションログフォルダ (<code>\BarcodeUtility install folder\userlog</code>) を確認してください。現在のログの保存先を確認してください。アプリケーション設定 > 情報 をクリックします。指定したフォルダにログを保存する権限が Barcode Utility に付与されていない可能性があります。アプリケーションログフォルダの場所を変更してください。詳細は、「4.1 アプリケーションログの確認」をご覧ください。サービスにログインしているユーザーアカウントの権限を確認してください。
保存したバーコード画像が見つからない。	アプリケーションフォルダ内のバーコード画像保存フォルダ (<code>\img_bkup</code>) を確認してください。
同時に 5 件以上の対象フォルダをモニタリングできない。	対象フォルダの上限は 5 件です。
対象フォルダ内のサブフォルダをモニタリングできない。	対象フォルダ内のサブフォルダはモニタリングできません。サブフォルダを新規対象フォルダとして設定し、同じルールを適用してください。
対象フォルダのモニタリングを開始できない。	次の点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none">設定が正しく、警告アイコン [] が表示されていないこと。モニタリングする のチェックボックスにチェックを入れ、適用 をクリックしたこと。対象フォルダのファイルを処理するためのルールが Barcode Utility に最低 1 件設定されていること。最低 1 件ファイル処理ルールが「有効」に設定されていること。Barcode Utility を実行中のコンピューターまたはサーバーから各対象フォルダにアクセスできること。スキャンに使用するブラザー製品で Barcode Utility が有効に設定されていること。詳細は、お近くのブラザーの窓口にお問い合わせください。
誤って処理されたファイルの名前の変更、移動、または別のフォーマットへの変換をしたい。	共通設定 でエラー時の処理の設定を確認してください。
Barcode Utility の以前の設定を復元したい。	有効なバックファイルがあることを確認し、インポート機能を使用してください。詳細は、「3.2 設定のエクスポート&インポート」をご覧ください。
Barcode Utility で処理する前に、スキャンされた文書のプレビューを確認したい。	Windows 用 Brother iPrint&Scan を使用して、文書をスキャンしてください。ブラザーのサポートウェブサイト (support.brother.co.jp) でお使いの機種種のダウンロードページにアクセスし、最新バージョンをダウンロードしてください。

問題	対処方法
複数ページの文書で複数のバーコードを指定したい。	Barcode Utility を使用することで、1 ページあたり最大 20 件のバーコードを指定できます。
出力先のファイルからバーコードが含まれるページを削除したい。	ファイル分割の設定を行う際に、「ファイル分割用バーコードを含むページを削除する」の機能を使用してください。詳細は、「2.5 ファイル分割の設定」をご覧ください。
バーコードが正しく読み取られなかった。	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションログでエラーの内容を確認してください。対処方法については、「5.2 ファイル処理エラー」をご覧ください。 バーコードがサポートされていることと正しく作成されていることを確認してください。詳細は、「付録 A : バーコードの認識要件」および「付録 C : サポートされているバーコード種別 & オプション」をご覧ください。
ファイルが処理された後、元のスキャンファイルが移動または削除された。	共通設定 で処理後の設定を確認してください。
Barcode Utility が指定したファイル名に従って入力ファイルを処理しない。	入力ファイル名を正しく指定していることを確認してください。指定したファイル名と完全に一致するファイルのみ処理されます。詳細は、「2.3 ファイル処理ルールの作成」をご覧ください。
作成したカスタム命名規則が正しく処理されない。	命名規則を正しく指定していることを確認してください。詳細は、「付録 B : カスタム命名規則」をご覧ください。
処理されたファイルのファイル名が間違っている。	ファイル変換ルールの設定を確認してください。
処理されたファイルが新たに処理されたファイルで上書きされる。	意図しないファイルの上書きを防ぐため、ファイル変換ルールを設定する際に、 ファイル名にカウンター情報を含める のチェックボックスにチェックを入れてください。
処理されたファイルが正しい場所に保存されない。	<p>次の点を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 静的パスが空白になっていないこと。 既存のフォルダが静的パスとして指定されていること。 静的パスに対象フォルダと同じパスが指定されていないこと。 静的パス名が 247 文字以内で設定されていること。 カスタム命名規則がすべて正しく指定されていること。 <p>詳細は、「2.7 ファイル保存の設定」をご覧ください。</p>
処理されたファイルが正しく分割されない。	ファイル分割ルールの設定を確認してください。

5.2 ファイル処理エラー

アプリケーションログを確認してください。詳細は、「4.1 アプリケーションログの確認」をご覧ください。

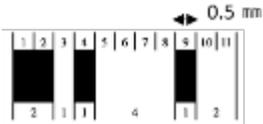
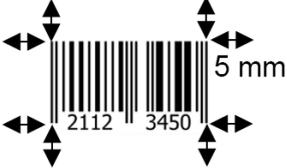
エラー	対処方法
ファイル変換ルールで指定されているバーコードが見つかりません。	ファイル変換ルール の設定でバーコード種別の設定を確認してください。詳細は、「2.6 ファイル変換の設定」をご覧ください。
ファイル分割ルールで指定されているバーコードが見つかりません。	ファイル分割ルール の設定でバーコード種別の設定を確認してください。詳細は、「2.5 ファイル分割の設定」をご覧ください。
入力ファイルのバックアップフォルダが見つかりません。	共通設定 でバックアップの設定を確認してください。詳細は、「2.8 共通設定」をご覧ください。
ファイル移動ルールで指定されているバーコードが見つかりません。	ファイル移動ルール の設定でバーコード種別の設定を確認してください。詳細は、「2.7 ファイル保存の設定」をご覧ください。
ファイル移動ルールで指定されているフォルダが見つかりません。	ファイル移動ルール の設定でフォルダパスの設定を確認してください。詳細は、「2.7 ファイル保存の設定」をご覧ください。
エラー時の処理で設定されているフォルダが見つかりません。	共通設定 でバックアップの設定を確認してください。詳細は、「2.8 共通設定」をご覧ください。
入力ファイルのバックアップフォルダに保存できません。	フォルダのアクセス権を確認してください。
同じ名前の PDF ファイルが作成され、上書きされました。	意図しない動作である場合は、ファイル変換ルールが正しく設定されていることを確認してください。詳細は、「2.6 ファイル変換の設定」をご覧ください。
指定領域外でバーコードが見つかりました。	バーコード認識の精度を向上するためバーコードを動かすかサイズを調整してください。詳細は、「2.4 ファイル処理ルールへのバーコードの割り当て」をご覧ください。
PDF のカラー設定が適切ではありません。	スキャナの設定をフルカラーに変更することを推奨します (最良のスキャン結果とバーコード認識を実現するため、24bit カラーのスキャン設定を使用することを推奨しています)。自動カラーモード設定の使用は推奨していません。 詳細は、「1.4 サポートされているスキャンカラー設定」をご覧ください。
<ページ番号>ページのバーコードのセルサイズが小さすぎます。	セルサイズを推奨サイズに変更してください。詳細は、「付録 A : バーコードの認識要件」をご覧ください。
PDF の解像度が 200dpi 未満です。	この解像度ではバーコードを正しく読み取れない可能性があります。バーコードの解像度を上げてください。詳細は、「付録 A : バーコードの認識要件」をご覧ください。
PDF の解像度が低すぎます。	2次元バーコードを使用する場合は、解像度の設定を 300dpi 以上に変更してください。詳細は、「付録 A : バーコードの認識要件」をご覧ください。
バーコードの指定領域が小さすぎます。	指定した領域の確認をしてください。詳細は、「2.4 ファイル処理ルールへのバーコードの割り当て」をご覧ください。
ファイル変換ルールで指定されている文字がバーコード内にありません。	設定を確認してください。詳細は、「2.3 ファイル処理ルールの作成」をご覧ください。

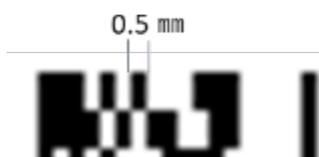
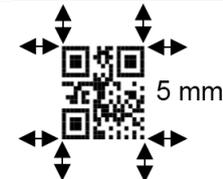
エラー	対処方法
ファイル分割ルールが登録されていません。	新規ファイル分割ルールを登録してください。詳細は、「2.5 ファイル分割の設定」をご覧ください。
ファイル変換ルールが登録されていません。	新規ファイル変換ルールを登録してください。詳細は、「2.6 ファイル変換の設定」をご覧ください。
ファイル移動ルールが登録されていません。	新規ファイル移動ルールを登録してください。詳細は、「2.7 ファイル保存の設定」をご覧ください。
サポート外の PDF が見つかりました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ お使いのブラザー製品で Barcode Utility が有効に設定されていることを確認してください。 ・ 対象フォルダへのスキャンに使用する製品のスキャン設定を確認してください。 ・ PDF の設定が標準の PDF であることを確認してください (サーチャブル PDF、高圧縮 PDF、パスワード付き PDF はサポートされていません)。詳細は、「1.3 対応入出力ファイルフォーマット」をご覧ください。 ・ 問題が解決しない場合は、お近くのブラザーの窓口にお問い合わせください。

付録 A : バーコードの認識要件



このセクションに書かれている要件は、24bit カラースキャン設定を使用する場合のものです。最良のスキャン結果とバーコード認識を実現するため、24bit カラーのスキャン設定を使用することを推奨しています。詳細は、「1.4 サポートされているスキャンカラー設定」をご覧ください。

項目		仕様	詳細
基本設定	バーコードの回転角度	0° 90° 180° 270°	 
			 
	許容角度	± 5°	
	1 ページあたりの認識されるバーコードの最大件数	20	
1 次元バーコード検出の条件	縦の長さ	5 mm 以上	
	推奨スキャン解像度	200 dpi 以上	
	推奨スキャン解像度を使用する場合の各線の最小サイズ	すべての線が幅 0.5 mm 以上	
	バーコード周りの最小余白	一番細いセルの線のサイズの 10 倍	
	バーコードの色	黒	
背景色	白		

項目		仕様	詳細		
2次元バーコード検出の条件	PDF417	推奨スキャン解像度	200 dpi 以上		
		推奨スキャン解像度を使用する場合の各線の最小サイズ (黒線 / 白線)	0.5 mm		
		バーコード周りの最小余白	5 mm 以上		
		バーコードの色	黒		
		背景色	白		
	QRコード	推奨スキャン解像度	200 dpi 以上		
		推奨スキャン解像度を使用する場合の各線の最小サイズ (黒線 / 白線)	200 dpi	0.7 mm	
			300 dpi 以上	0.5 mm	
		バーコード周りの最小余白	5 mm 以上		
		バーコードの色	黒		
		背景色	白		
	Datamatrix / GS1 Datamatrix	推奨スキャン解像度	200 dpi 以上		
		推奨スキャン解像度 & 1つのセルの最小サイズ	200 dpi	0.6 mm	
			300 dpi 以上	0.5 mm	
		バーコード周りの最小余白	5 mm 以上		
		バーコードの色	黒		
		背景色	白		

付録 B : カスタム命名規則

カスタム命名規則を使用してファイル名が設定されている場合で、バーコード情報がない、またはバーコード情報にサポートされていない文字のみが含まれている場合、カスタム命名規則は無視されます。



年、月、日、時、分、秒の設定は、入力ファイルが作成された時間または入力ファイルが対象フォルダに保存された時間に基づくものではありません。

入力情報	コード	機能
年	[YEAR]	作成年を追加します*
月	[MONTH]	作成月を追加します*
日	[DAY]	作成日を追加します*
年月日	[YEAR] [MONTH] [DAY]	作成年月日を追加します*
時	[HOUR]	時間 (時) を挿入します*
分	[MINUTE]	時間 (分) を挿入します*
秒	[SECOND]	時間 (秒) を挿入します*
時間	[HOUR] [MINUTE] [SECOND]	時間 (時分秒) を挿入します*
バーコード情報(すべて)	[BARCODE]	バーコード ID から認識された情報を挿入します
バーコード情報(一部)	[BARCODE L(A,B)] [BARCODE R(A,B)]	バーコード ID から認識された情報から指定の文字数を挿入します
ファイル名	[FILENAME]	元の入力ファイル名を挿入します

* システムの時間と同期されます



- ・ [COUNTER] 以外の命名規則はすべて、同じジョブプロファイルで複数回使用できます。
- ・ すべての命名規則に大文字のみを使用する必要があります。
- ・ サポートされているファイル名 (フォルダ名 + 名前) の最大文字数は 247 文字です。ファイル名が最大文字数を超過している場合、ファイルは自動的にデフォルト設定の保存先のパスに保存されます。
- ・ ユーザー定義のファイル名を作成する場合は、特殊文字 (<>:"/|\|?*¥) を使用しないでください。

バーコード ID から認識された情報に、いずれかの文字が含まれている場合、該当する文字はファイル名に含まれません。

[BARCODE L(A,B)] と [BARCODE R(A,B)] の命名規則

連続するバーコード文字の指定した文字数を選択する場合は、命名規則 [BARCODE] を使用します。この命名規則には次のオプションがあります。

命名規則のオプション	説明
[BARCODE L(A,B)]	バーコード情報を左から右に読み取ります (カウントします)。 バーコード情報は、A の右側の文字から B の文字数分になります。
[BARCODE R(A,B)]	バーコード情報を右から左に読み取ります (カウントします)。 バーコード情報は、A の右側の文字から B の文字数分になります。

例

以下の要素を使用して入力ファイル名を設定する場合：

- 静的接頭辞：「document」
- 動的バーコード ID 情報 (例：「Invoice」)
- 動的ページカウンター (例：「001」)

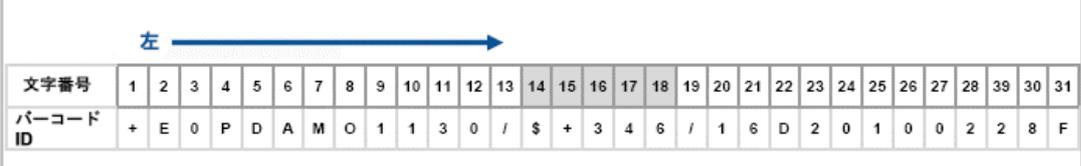
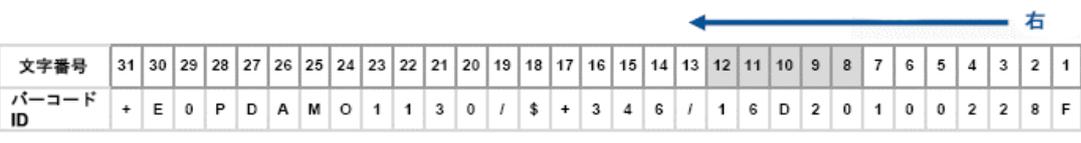
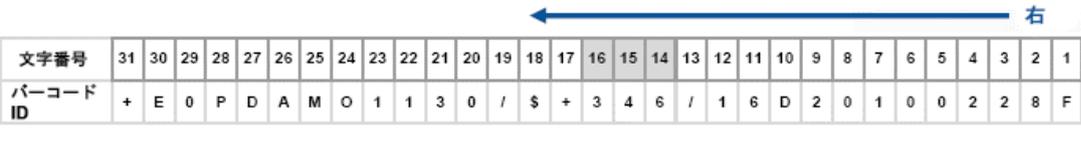
作成する命名規則：document_[BARCODE]_[COUNTER]。

最初の文書の文書名は「document_Invoice_001」となります。

ファイル名の要素の順序は変更できます。例えば、命名規則を [BARCODE]_[COUNTER]_document にすると、ファイル名は「Invoice_001_document」となります。

バーコード ID を数字の参照値のみを使用して左右のどちらから読み取るか (カウントするか) を設定する場合は、以下の例を参照してください。

#	名前	説明
1	左から カウント	<p>命名規則： [BARCODE L(8,4)]</p> <p>カウント方法： 左からカウントして 8 番目の文字の次の文字から 4 文字を読み取ります。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>バーコード内の文字情報： バーコード ID は 1130 となります</p>
2	右から カウント	<p>命名規則： [BARCODE R(13,11)]</p> <p>カウント方法： 右からカウントして 13 番目の文字の次の文字から 11 文字を読み取ります。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>バーコード内の文字情報： バーコード ID は 16D20100228 となります</p>

#	名前	説明
3	特殊文字 1文字を使用し左から カウント	<p>命名規則：[BARCODE L("/",5)]</p> <p>カウント方法：左からカウントして最初の特文字 / の次の文字から5文字を読み取ります。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>バーコード内の文字情報：バーコード ID は \$+346 となります</p>
4a	特殊文字 1文字を使用し右から カウント	<p>命名規則：[BARCODE R("/",5)]</p> <p>カウント方法：右からカウントして最初の特文字 / の次の文字から5文字を読み取ります。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>バーコード内の文字情報：16D20</p>
4b	特殊文字の 文字列を使用し右から カウント	<p>命名規則：[BARCODE R("/\$+",3)]</p> <p>カウント方法：右からカウントして最初の特文字の文字列 /\$+ の次の文字から3文字を読み取ります。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>バーコード内の文字情報：346</p>

付録 C : サポートされているバーコード種別 & オプション

Barcode Utility でサポートされている 1 次元および 2 次元バーコードは以下の通りです。

バーコード名	コード例	チェックデジット	
1 次元バーコード	CODE39 / CODE3of9	 * 1 2 3 4 5 6 CODE - 3 9 *	任意
	ITF / ITF-14	 12345678901231	任意
	CODABAR / Code2of7 / NW-7	 a 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 a	任意
	CODE93	 1234567890ABCDE	必須
	CODE128	 * 1 2 3 4 5 6 CODE - 1 2 8 *	必須
	GS1-128 / UCC128 / EAN128	 (01)0451234567890(17)120131(10)A0123	必須
	UPC-A	 0 12345 67890 1	必須
	UPC-E	 0 12345 6	必須
	JAN-8 / EAN-8	 4 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 4	必須
	JAN-13 / EAN-13	 4 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 4	必須
2 次元バーコード	QR		-
	Datamatrix / GS1 Datamatrix		-
	PDF417		-

サポートされていないバーコード

- マイクロ QR コード
- UPC-A、UPC-E のアドオンコード
- JAN-8/EAN-8、JAN-13/EAN-13 のアドオンコード

バーコードにチェックデジットが含まれる場合、最後の 1 桁または 2 桁 (バーコードが正しく構成されていることを保証する部分) が自動的に確認されます。確認できない場合、バーコード情報は処理されません。CODABAR/CODE39 のスタートコードとエンドコードは処理結果に含まれません。

付録 D : バーコード用の XML 仕様

XML ファイルの定義

要素&ツリー構造	タグ名	必須 / 任意	仕様
文書名	DocumentName	必須	バーコード情報が含まれている文書名
合計ページ数	TotalPageNum	必須	文書に含まれる合計ページ数
バーコードの合計件数	TotalBarcodeNum	必須	文書に含まれるバーコードの合計件数
バーコード情報	BarcodeInfo	必須	バーコード情報のタグ
バーコード種別	Type	必須	バーコード種別
チェックデジットを含むデコード結果	String	任意	バーコード文字列
チェックデジットを除外したデコード結果	StringWoCheckDigit	必須	チェックデジットを除くバーコード文字列
場所情報	Location	必須	場所情報のタグ
領域情報	Area	必須	バーコード領域のタグ
ページ番号	PageNum	必須	このバーコードを含むページ番号
X 座標	X	必須	バーコードの左上隅の X 座標 (px)
Y 座標	Y	必須	バーコードの左上隅の Y 座標 (px)
幅	Width	必須	バーコードの幅 (px)
高さ	Height	必須	バーコードの高さ (px)
回転角度	Degree	必須	バーコードの回転角度
オプション情報	Option	必須	オプション情報のタグ
チェックデジットフラグ	CheckDigit	必須	このバーコードにチェックデジットが含まれる場合のフラグ
スタートコード	StartCode	任意	スタートコード (バーコード種別が CODABAR または CODE39 の場合のみ使用されます)
ストップコード	StopCode	任意	ストップコード (バーコード種別が CODABAR または CODE39 の場合のみ使用されます)

規格名	サポートされるバーコード種別
CODE39	CODE39/CODE3of9
ITF	ITF / ITF-14
CODABAR	CODABAR / Code2of7 /NW-7
CODE93	CODE93
CODE128	CODE128
GS1-128	GS1-128 / UCC128 / EAN128
UPC-A	UPC-A
UPC-E	UPC-E
EAN-8	JAN-8 / EAN-8
EAN-13	JAN-13 / EAN-13
QR	QR
DATAMATRIX	Datamatrix / GS1 Datamatrix

XML の記述例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<BrotherBarcodeAgentBarcodeRecognitionResult>
  <DocumentName>                                </DocumentName>
  <TotalPageNum>                                </TotalPageNum>
  <TotalBarcodeNum>                             </TotalBarcodeNum>
```

```
<BarcodeInfo>
  <Type>
  <String>
  <StringWOCheckDigit>

  <Area>
    <PageNum>
    <X>
    <Y>
    <Width>
    <Height>
    <Degree>
  </Area>

  <Option>
    <CheckDigit>
    <StartCode>
    <StopCode>
  </Option>
</BarcodeInfo>
```

(追加のバーコードを指定する場合は、この下に個別の BarcodeInfo セクションを設け、各バーコードを記述してください)

```
</BrotherBarcodeAgentBarcodeRecognitionResult>
```

brother